

新モデル・コア・カリキュラムを踏まえた
東京歯科大学の新カリキュラム案

1) 準備コアカリ組込への対応
 2) 超高齢社会教育への対応
 3) 隣接医学に関する教育への対応
 4) 診療参加型臨床実習への対応

→ 現行カリキュラムの大幅な見直し

準備コアカリ組込への対応

生体科学 (第2学年前期・金曜2限)
 歯科物理学 (第2学年前期・月曜3限)

30年度実施に向け改変

生体構成物質の化学 (第2学年前期・月曜3限)
 化学研究室担当 コアカリC-1-1)
 生体現象の物理学 (第2学年前期・金曜2限)
 物理学研究室担当 コアカリC-1-2)

超高齢社会に関する教育への対応

(新規・重点) 地域包括ケアシステム
 ・改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラムの考え方
 1 基本理念と背景
 2 大学教育における位置付け
 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力
 A-7 社会における医療の実践
 A-7-1) 地域医療への貢献
 B 社会と歯学
 B-2 健康と社会、環境
 B-2-2) 保健・医療・福祉・介護の制度
 C 臨床実習
 G-4 チーム医療・地域医療
 ・臨床実習の内容と分類

介護施設実習 4年後期へ
 地域包括支援センター実習

4年 月	4年 水	4年 木	4年 金
9:00 ~ 10:25	口腔外科学	口腔内科学	口腔インテグレーション実習
10:35 ~ 12:00	口腔外科学	口腔内科学	口腔インテグレーション実習
13:00 ~ 14:25	法医学	歯科物理学	歯科物理学
14:35 ~ 16:00	歯科物理学	歯科物理学	歯科物理学
16:10 ~ 17:30	内科学	内科学	内科学

隣接医学に関する教育への対応

内容項目を再検討し、
 内科、外科、隣接医学として科目を再編

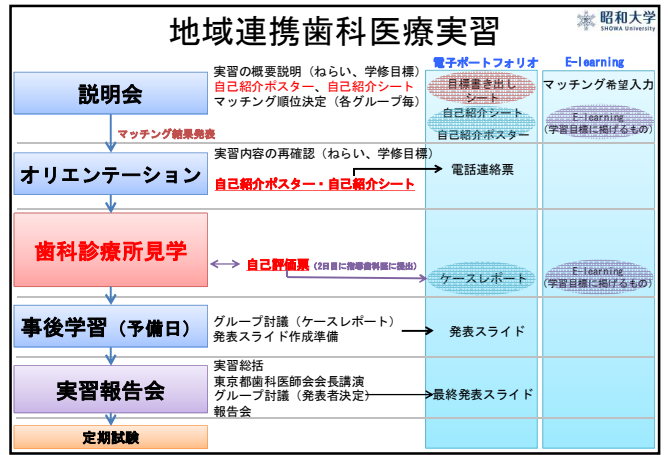
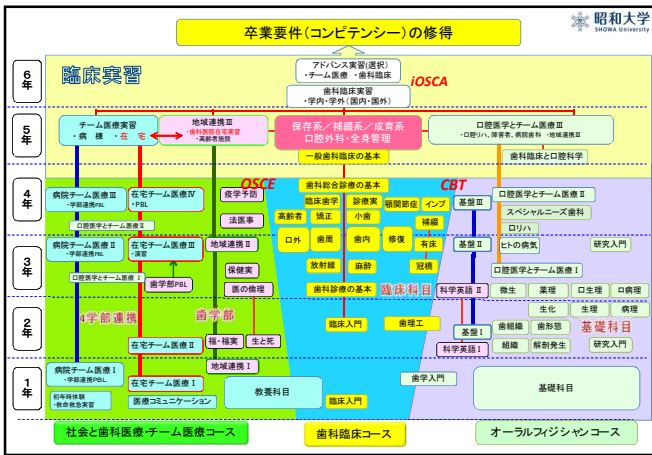
内科学
 ・呼吸器系：呼吸不全、閉塞性肺疾患（気管支喘息を含む）、拘束性肺疾患、肺腫性肺炎 (17, 18)
 ・循環器系：心不全、心内膜炎、弁膜症、虚血性心疾患、不整脈、高血圧症、深部静脈血栓症 (14, 15, 21, 22)
 ・消化器系：消化性潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変 (3-5, 10)
 ・血液・造血器・リンパ系：貧血、出血傾向、白血病 (19, 20)
 ・内分泌系：糖尿病、甲状腺疾患、骨粗鬆症 (6, 8, 12, 13)
 ・腎・尿路系：慢性腎臓病・急性腎障害 (23)
 ・感染症：ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症 (9, 11)
 (括弧内は発行シラバス番号)

外科学
 隣接医学
 ・小児科学
 小児けいれん性疾患、先天性疾患、発達障害
 ・眼科学
 ・産婦人科学
 ・精神科学
 認知症、統合失調症、先天性疾患、発達障害
 ・整形外科学
 ・耳鼻咽喉科学
 ・皮膚科学・形成外科学
 皮膚ウイルス感染症（麻疹、手足口病を含む）

診療参加型臨床実習への対応

F シミュレーション実習
 全69項目中、未実施11項目(16%)
 例) F-3-3)② 象牙質知覚過敏症に対する処置（薬物塗布、象牙質被覆）を実施できる。
 F-3-4)② メタルポストコア、レジンポストコア、ファイバーポストコアによる支台築造の基本操作を実施できる。
 F-3-7)① 高齢者及びその介護者に対する基本的な対応ができる。
 臨床基礎実習を中心に、本年度中にトライアル実施。平成30年度までに全69項目を正式カリキュラムに導入。

G 「臨床実習 内容と分類」
 全168項目中、未実施40項目(24%)
 例)
 ・ブリッジの支台歯形成(分類II)
 ・食事指導・食育指導(分類II)
 ・レジンインレー修復(分類III)
 ・生活歯の漂白処置(分類III)
 ・超音波検査(分類IV)
 ・心理学的検査(分類IV)
 分類に従いカリキュラムに組み込み、本年度より全168項目に対応開始中。



日本大学歯学部：新コアカリキュラムの改革について

1. 本学部の特色を見出すためのアドミッション・ポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマ・ポリシーの見直し。
2. 卒業認定に関わるコンピテンシ・コンピテンシーの明確化。
3. 「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」に対応するカリキュラムマップの見直し。

本学教育課程のアドミッション・ポリシー

1. 歯科医師となる目的意識と強い意欲をもつ者。
2. 自己の目標を実現する挑戦力をもつ者。
3. 本学で学んで行くうえで必要な基礎知識（学力）を有する者。
4. 卒業後も生涯にわたり学習意欲を保持し社会に貢献する姿勢をもつ者。

全学 学位 学位単位（単位・学修）

3つの方針

- 1. 基礎・臨床・社会医学の知識を身に付けること
- 2. 自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的な知識とスキルを修得すること
- 3. 新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けること

歯学部DP案(卒業認定に関するコンピテンシ・コンピテンシー) (案)

DP1:コンピテンシ「豊かな知識・教養に基づき高い倫理観」
コンピテンシー「医の尊厳を理解し、法と倫理に基づいた医療を実践するために必要な、豊かな教養と歯科医学の知識を修得できる。」

DP2:コンピテンシ「世界の現状を理解し、説明する力」
コンピテンシー「国際社会の現状と背景を理解し、地域社会における医療・保健・福祉の役割が説明できる。」

DP3:コンピテンシ「論理的・批判的思考力」
コンピテンシー「多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。」

DP4:コンピテンシ「問題発見・解決力」
コンピテンシー「自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的な知識とスキルを修得できる。」

DP5:コンピテンシ「省察力」
コンピテンシー「プロフェッショナルとして生涯にわたり、振り返りを通じて基礎・臨床・社会科領域において自らを高めることができる。」

DP6:コンピテンシ「挑戦力」
コンピテンシー「新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。」

DP7:コンピテンシ「コミュニケーション力」
コンピテンシー「医療をはじめとする様々な場において、他者との円滑な意思疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。」

DP8:コンピテンシ「リーダーシップ・協働能力」
コンピテンシー「患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。」

教員の合言葉は学生と向き合う！

初年次教育(自主創造の基礎1, 2)

専門教育(学部2～3年生)

専門教育(学部3～4年生)

専門教育(歯科病院)

リーダーシップ・協働能力(DP8)

「知っている」
「理解している」
「判断している」
↓
「行動できる」

各学年の到達目標 (案)

第1学年

1. 医師になるための自覚を持ち、社会人としての基本的な行動をとることができる。
2. 心身の健康維持に心がけ豊かな学生生活を過ごすことができる。
3. 他者の意見を尊重し、明確な意思疎通を図ることができる。
4. 社会に貢献できる医師人となるために、幅広い教養と総合的な判断力を磨くことができる。
5. 本学の教育理念である「自主創造」の精神を忘れず自己研鑽に努めることができる。

第2学年

1. 新たな知見を生み出すために、歯科医学の基礎的知識を身に付けることができる。
2. 医療倫理を遵守し患者の権利を尊重できる医師人としての素養を身につける。
3. 臨床に対応しうるコミュニケーション能力を高め、世界に貢献する語学力を身につけることができる。

第3学年

1. 医療・医療・福祉の現状を理解し、その在り方を説明できる。
2. 円滑な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルの基礎を習得できる。
3. 基礎医学および歯科医学の知識を身につけ、臨床的な視点から問題を抽出できる。
4. 臨床のプロセスを知り、自ら取り組むべき課題を発見し、挑戦・解決する基礎的能力を高める。

第4学年

1. 情報を収集し、分析した結果から問題点を抽出することができる。
2. 歯科医学に関する体系的知識を習得し、臨床的な視点から問題を解決することができる。
3. 倫理的価値観を理解し、省察力を通じて自己を高めることができる。
4. 最先端の歯科医学に関する知識を修得し、自らが取り組むべき課題を探索することができる。
5. 基礎・臨床・社会医学の知識を基に、最新の情報を取得するための語学力を身につける。

第5学年

1. 医療現場に必要な医学知識を基に適切に診断し、治療計画を立てることができる。
2. 歯科医師の義務を自覚し、チーム医療のメンバーとして協働することができる。
3. 患者（個人）情報を適切に扱い、歯科医師の義務や医療倫理を遵守し、患者に寄り添うことができる。
4. 臨床の体系的知識および診療・診断と治療技術に関する基本的事項を修得できる。

第6学年

1. 自ら取り組むべき課題に自ら挑戦し、解決することができる。
2. 歯科医学・医療とスキルを磨き、修得し、実力を磨き上げて自己を高めることができる。
3. 患者を中心としたチーム医療実践のため、責任あるリーダーシップと、適切なコミュニケーションを実践できる。

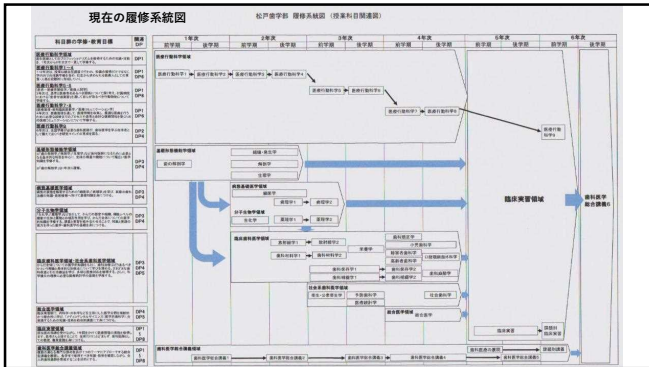
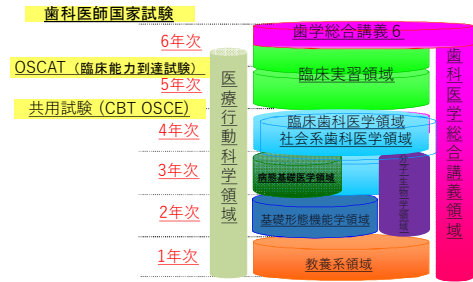
医学・歯学教育指導者のためのワークショップ

新モデル・コア・カリキュラムを踏まえた
各大学の最新カリキュラム案について

- ・基礎自然科学
- ・歯科医学への学修動機と問題対応能力
- ・歯科医学総合講義
- ・基礎歯科学科目の再配置
- ・超高齢社会対応への統合型科目
- ・模型実習、相互実習
- ・医療行動科学
- ・シミュレーション実習
- ・診療参加型臨床実習
- ・学内施設での他職種見学、体験実習
- ・学外施設での体験実習

日本大学松戸歯学部 学務担当 小見山 道

平成22年度改定カリキュラム（現行カリキュラム）の構成



新モデル・コア・カリキュラムを踏まえた日本大学松戸歯学部新カリキュラム変更案

基礎自然科学
生体を構成する物質の化学的基礎について1年次にて修得する。

歯科医学への学修動機と問題対応能力
歯科専攻的知識への早期体験による学修動機の醸成として歯の解剖学、歯科診療体験実習や、医学研究の必要性理解や歯科医学、歯科臨床の多様性の体験と共に、課題探求方法や学修の在り方を身に付けるために講義配属によるグループ学修プログラムを1年次に配置する。

基礎歯科学科目の再配置
2年次から3年次において正常構造と機能からの構造と機能への学修の順次性を鑑みて、基礎歯科学科目の再配置を行う。

超高齢社会対応への統合型科目
超高齢社会への対応のために、高齢者における歯科治療の問題点や、多職種連携・多職種協働やチーム医療を含めた統合型知識を教授する高齢者歯科学、社会歯科学、栄養学、総合医学等の科目を4年次後期に配置する。

模型実習、相互実習
各臨床科目において模型実習の強化と、相互実習をとり入れることで診療参加型臨床実習への導入を図る。

歯科医学総合講義
4年次まで継続的に配置される歯科医学総合講義により歯科医学総合講義1は、医学・歯科医学史等の歯科の一般的な知識の統合と基礎歯科学の内容についての準備学修、歯科医学総合講義2は、基礎歯科学科目の統合と共に、臨床歯科学科目の準備学修、歯科医学総合講義3は臨床歯科学科目の知識の統合を図り、歯科医学総合講義4は基礎から臨床歯科医学までの知識統合のためにテーマ別に講義を構成する。

医療行動科学
4年次まで継続的に配置される医療行動科学により段階的に医療人としての資質を獲得し、4年次後期臨床実習前の医療面接の到達点を設定する。シミュレーション実習

診療参加型臨床実習
Student Doctorとして担当患者に対する、診査、診断、治療計画の立案、診療経験を増強する。各診療科配属で患者に触れる機会を拡充する。

学内施設での他職種見学、体験実習
病院内での病棟や看護部、薬剤部、他職種の職場見学、体験実習により、医療安全や感染対策の実態を体験し、看護師や歯科衛生士、歯科技工士との協働により病院内での多職種連携・多職種協働を体験する。

学外施設での体験実習
これまでに行ってきた高齢者施設での訪問診療体験を拡大することで、多職種連携・多職種協働やチーム医療を具体的にイメージできるようにする。さらに保健所や地域保健センター等、将来にわたって関連する学外施設への訪問体験を実施することで、地域医療や病診連携、多職種連携、地域包括ケアシステムなどの領域を跨る知識の統合を図る。

日本歯科大学生命歯学部における 新モデル・コア・カリキュラム への対応



・アドミッションポリシー

本学は基本理念と教育の目標を達成するために、十分な学力の高い目標意識を持ち、相手の気持ちを理解できる人間性豊かな人を求めている。

・カリキュラムポリシー

幅広い教養と倫理観を持った医療人を育成する。

・ディプロマポリシー

- ① 建学の精神、「自主独立」を実践できる。
- ② 歯科医師に必要な教養と医療倫理観を有する。
- ③ 本学の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、所定の卒業単位を修得している。



「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」 のための特色あるカリキュラム 1

A 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化 ⇒ 1～2 学年における対応

- | | |
|------------------|---|
| 1. プロフェッショナリズム | ⇒ 1 学年前期 実習「病院医療概論」 |
| 2. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 | ⇒ 1 学年前期 実習「臨床課題解決実習」(PBL) |
| 3. コミュニケーション能力 | ⇒ 1 学年前期 講義「医療コミュニケーション学」
⇒ 2 学年前期 実習「コミュニケーション概論」 |
| 4. 医療の質と安全の管理 | ⇒ 1 学年前期 講義「医療管理学」
⇒ 1 学年後期 講義「医療安全」
⇒ 2 学年前期 講義「歯科医療の基本」(+TBL) |
| 5. 科学的探求 | ⇒ 2 学年後期 実習「生命歯学探究」* |
| 6. 社会における医療の実践 | ⇒ 2 学年後期 講義「地域連携・在宅医療概論」 |

* 学生が自主的に選択できるプログラム



「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」 のための特色あるカリキュラム 2

F 「シミュレーション実習（模型実習・相互実習）」 について（4,5 学年）

1. 診療の基本
 - ⇒ 各臨床基礎実習（3～4年）
 - ⇒ 統合臨床基礎学実習（4年後期）
 - ⇒ シミュレーション実習（4年後期）
患者ロボット「シムロイド」による
2. 基本的診察法、基本的臨床技能
 - ⇒ 臨床参加型実習



「多様なニーズに対応できる歯科医師の養成」 のための特色あるカリキュラム 3

G 「診療参加型臨床実習」における特徴（5 学年）

1. チーム医療・地域医療
 - ⇒ 口腔リハビリテーション多摩クリニックにおけるローテート実習
⇒ 多職種連携・多職種協働やチーム医療の実践
 - ⇒ 健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム
⇒ 5 大学連携プログラム
2. その他
 - ⇒ 救命救急処置ローテート実習
 - ⇒ インプラントローテート実習
 - ⇒ 病院病理ローテート実習



本学の高等教育における質保証

- ・(公財) 日本高等教育評価機構 大学機関別認証評価 認定
- ・(公財) 日本医療機能評価機構 認定
- ・(公社) 医療系大学間共用試験実施機構

平成29年度歯学系一斉技能試験トライアル実施



歯学—日本歯科大学（新潟生命歯学部）

日本歯科大学新潟生命歯学部

現状のカリキュラムで既に対応済み

多様なニーズに対応できる(実践的臨床能力を有する)
歯科医師の養成
 強調項目(モデルコアカリキュラム)

- ・国民から求められる倫理観・医療安全
- ・チーム医療
- ・地域包括ケアシステム
- ・健康長寿社会

歯科医師国家試験出題基準充実項目

- ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関する内容
- ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容
- ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容
- ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容

日本歯科大学新潟生命歯学部

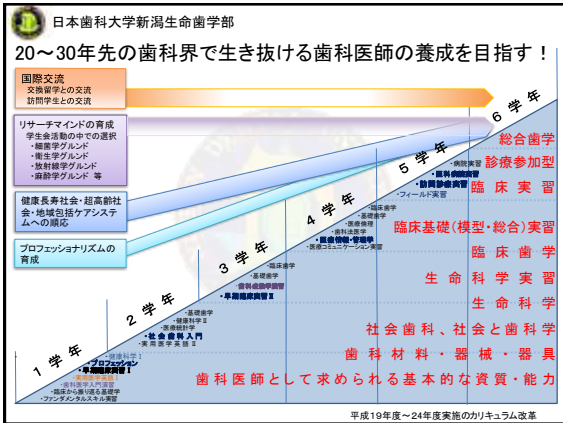
具体的カリキュラムに加えたまたは一部見直しを行った講義・実習

- ・健康長寿社会・超高齢社会・地域包括ケアシステム・チーム医療への順応
- ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科診療に関する内容

平成19年度 医療倫理、医療情報・管理学(4年)、社会歯科入門(2年)の新設
 平成20年度 訪問歯科診療に市中病院における退院時カンファレンス参加必修化(5年)
 平成22年度 プロフェッション(1年)の新設
 平成23年度 高齢者歯科学、歯科医のための内科学(4年)のシラバス見直し
 有床歯系臨床基礎実習時間の倍増
 平成24年度 歯科インプラント実習における除去術の追加

- ・口腔の健康を通して人の命と生活を守る豊かな人間性と生命の尊厳の深い認識を持った歯科医師の育成(プロフェッショナリズムの育成)
- ・国民から求められる倫理観・医療安全、職業倫理

平成19年度 医療倫理、医療情報・管理学(4年)、社会歯科入門(2年)の新設
 平成22年度 プロフェッション(1年)の新設



カリキュラム案の全体概要と特色

神奈川歯科大学
 教学部教務担当部長
 山本龍生

カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー

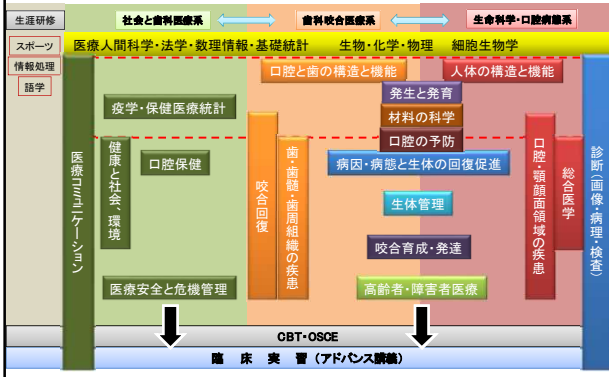
カリキュラム・ポリシー

1. 幅広い教養と豊かな愛情の習得
2. 基礎医学の知識の修得
3. 臨床歯学の知識と技術の習得
4. コミュニケーション能力の習得
5. 自己学習能力と生涯学習能力の習得
6. プロフェッショナリズムの醸成

ディプロマ・ポリシー

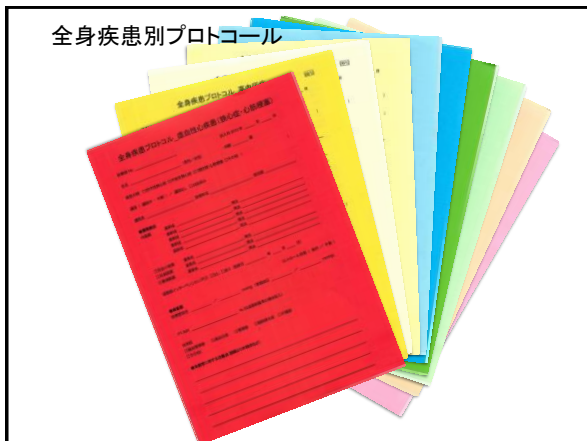
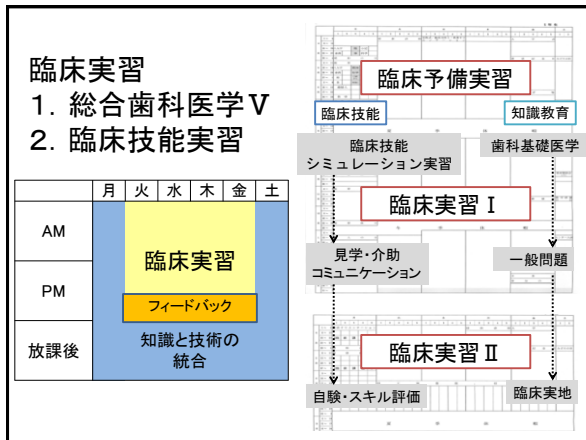
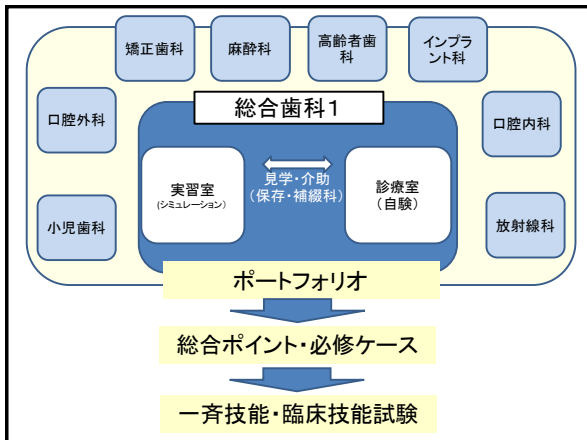
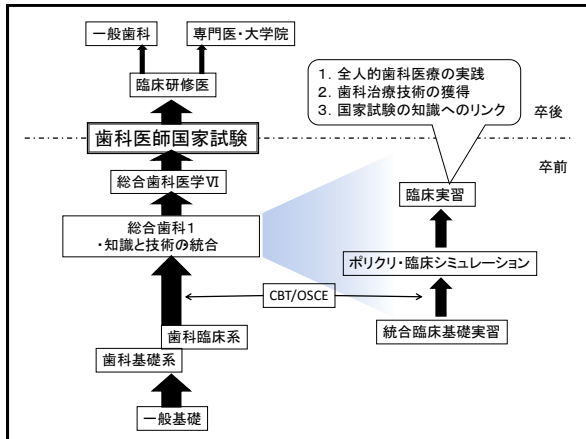
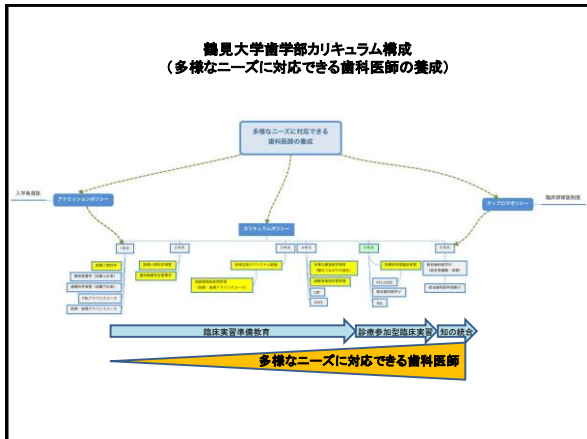
1. 社会人としての基本的知識と幅広い教養力及び医療人としての倫理観を持ち、国際化に対応するための能力を有する。
2. 医療人としての問題発見と解決能力を有する。
3. 歯科医師としての高度な専門的能力を有する。

コースおよびモジュールの関連



カリキュラム案の全体概要と特徴

- 新コアカリでの強調点の、現行カリキュラムでの確認
 - 縦のつながり(コアカリ⇒国試出題基準)
 - 教養教育と準備教育の融合
- 新コアカリでの強調点の、現行のカリキュラムへの追加・強化
 - 地域医療への貢献, チーム医療の実践
 - 制度の理解, コミュニケーション能力の向上
 - 多様なニーズに対応できる歯科医師の養成
 - PBL等による問題発見・問題解決能力の向上



医学・歯学教育指導者のためのワークショップ

**新モデル・コア・カリキュラム
への取り組み**

愛知学院大学・歯学部

A-1 プロフェッショナリズム

A-1-1) 医の倫理と生命倫理

学修目標
③ 臨床に関する倫理的問題を説明できる。

本学の取り組み

歯学入門セミナー：一泊研修
講義内容：歯科医師のキャリアデザイン
一般目標：良き医療人として成長するため、理想とする歯科医師像を考察する。

A-1-3) 歯科医師としての責務と裁量権

学修目標
① 歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。
③ 患者との信頼関係構築の重要性を説明できる。
④ 歯科医師に課せられた社会的責任と法的責任を説明できる。

本学の取り組み 歯学入門セミナー：歯科医療施設見学
講義内容：夏休みに歯科医療施設の見学を2か所を行う。
一般目標：歯科の臨床を実際に理解する。

早期臨床実習：一年次春学期に診療部の見学を行う。
一般目標：歯科医師として対患者関係構築のための臨床現場にてコミュニケーションの態度と技術を習得する。

A-5 チーム医療の実践

A-5-1) 患者中心のチーム医療

学修目標
② 医療チームや各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明できる。

本学の取り組み

歯科医学学習得法：グループ学習（チュートリアル）
薬学部の学生と健康問題を題材にして問題基盤型学習を行う。

A-8 科学的探究

A-8-1) 医学研究への志向の涵養（研究マインドの涵養）

学修目標
③ 患者や疾患を分析するために、教科書・論文などから最新の情報を検索・整理統合することができる。

A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

A-9-1) 生涯学習への準備

学修目標
④ 科学的研究に積極的に参加する。

本学の取り組み

研究室見学：専門基礎科目の担当講座の研究室を見学する。
一般目標
歯科医学を理解し、将来の医療人としてのキャリアを継続するための目的意識および自覚、病因や病態を解明するなどの研究マインドを涵養する。

G 臨床実習

G-4 チーム医療・地域医療

学修目標
① 地域医療・地域保健（在宅医療）を経験する。
④ 多職種連携を経験する。

本学の取り組み

寄付講座の開設：在宅歯科医療学講座
講義実習内容：歯科訪問診療の見学
病院歯科の見学

○ 大阪歯科大学 3つのポリシー

アドミッションポリシー
 建学の精神である「博愛と公益」に基づき、教育目標に沿った人材を育成するために医療人として目的意識が高く、十分な基礎学力を備え、自ら考え、判断し、表現できるコミュニケーション力を有している人を受け入れる。

カリキュラムポリシー
 学位授与の方針に示す高度な知識、技能、態度を修得するために各学部で履修する教育内容及び教育方法を体系的に学習できるように教育課程を編成し、講義、実習、演習、試験に基づいて知識、技能、態度を身に付けているかを評価する。

ディプロマポリシー
 大阪歯科大学の教育目標に沿って各学部において所定の期間在学し、所定の科目、所定の演習及び実習を履修し、すべての試験に合格し、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

↓

以上の3ポリシーとの整合性を図りながら、改定されたコアカリ内容、臨床実習の内容と分類、および歯科医師国家試験出題基準をすべてシラバスに網羅しているか、カリキュラム委員会にて検証を行っている。

○ 診療参加型臨床実習の充実

大阪歯科大学附属病院 病院理念
 私たちは、患者さまの病に共感し、あたたかい医療を提供します。

<基本方針>

- 安全・安心な医療に努めます。
- 良質で高度な先進的医療を提供します。
- 口腔保健の向上に努め、健康増進と長寿に貢献します。
- 人権を尊重し、公正な医療を行います。
- 人間性豊かな、優れた医療人を育成します。

⇒病院理念は当院式での訓示、また臨床実習シラバスへの掲載により、患者の安全とプライバシー保護の配慮を徹底させている。

- ・3年次に「患者のための臨床歯科医学情報科学」を実施し、患者情報のセキュリティの重要性や医療情報倫理について教育している。
- ・臨床実習開始前の模型基礎実習においてもマスク、グローブ、ゴーグル等の着用を実施
- ・臨床実習直前には院内のICT主導による手指衛生の指導・講習を行い、共用試験OSCE時に実施状態を観察

- ・臨床実習中、教職員対象に開催される医療安全・感染対策講習会への出席を義務化
- ・患者の臨床実習参加の意思は、初診時に同意文書により確認
- ・臨床実習終了時の技能・態度評価の徹底

現在、臨床実習実施の全診療科において独自の技能試験を実施
 ⇒2020年より全国統一試験となることを踏まえ、本年度より臨床実地試験および一斉技能試験の両方のトライアルに参加する。

○ 多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

- ・国際交流の充実：現在9か国15大学と協定を結んでおり、うち10大学と卒前段階からの学生交流・交換を行っている。
- ・漢字検定・TOEICの実施

1) 漢字検定
 第1学年全員(新入生のみ)が対象、日本漢字能力検定準2級

2) TOEIC IPテスト
 第1学年9月期試験成績上位者(43名)が対象
 現代教養を3クラス制で実施し、その中の1クラスをTOEIC受験コースとして、10月以降10コマ程度英語専任教員による講義を実施

- ・1年次の早期(5月)に附属病院の体験見学実習、および社会福祉施設(老人福祉施設、身体障害者施設)の訪問実習を実施
- ・第3学年の歯科東洋医学において、漢方医学の基礎に関し、漢方医学教育を受けた教員による講義を実施
- ・卒前の研究室配属

第3学年において、2年生時に全科を本試験で合格した学生の中から、希望者を講座・教室、中央歯学研究所に配属し、研究計画を立案させる。最終的な研究成果を専門学術大会あるいはSCRPIにおいて発表することを目指す。

- ・第4学年の臨床実習直前ポリクリ実習において、舌接触補助床の製作実習、高齢者体験スーツを用いた車椅子への移動と移乗実習、摂食嚥下機能のスクリーニング法と嚥下内視鏡実習、食事介助の実習、口腔ケアのケアプラン策定と専門的口腔ケア実習を行う。
- その後、第5学年における附属病院での高齢者歯科臨床実習と並行し、訪問診療として急性期病院における口腔ケアおよび歯科治療、また回復期病院における摂食機能療法の見学・介助実習を実施
- ・高齢者歯科以外にも、小児歯科臨床実習において、Down症児などへの摂食嚥下指導の見学・介助実習を実施



高齢者体験スーツを着用した車椅子移乗実習



訪問診療での口腔ケア臨床実習

